

第2回校庭芝生化セミナー

校庭芝生化等の動向について

文部科学省 大臣官房文教施設企画部 施設助成課

公立学校施設整備における重点課題

1. 耐震性の確保

児童生徒等と地域住民の生命の安全の確保

2. 防犯対策などの安全性の確保

児童生徒の安全・防犯対策、アスベスト対策等

3. 教育環境の質的な向上

教育内容や教育方法等の変化への対応、
地域との連携、環境との共生、老朽化対策、
バリアフリー化、木材活用等

主な公立学校施設整備補助事業一覧

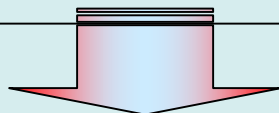
事業名	補助率	事業内容
新增築	1 / 2	教室の不足を解消するための校舎または体育館の新築又は増築等。
改築		構造上危険な状態にある学校建物の改築等。
地震補強		既存の学校建物を補強し、耐震性能を確保する。
大規模改造		既存の学校建物の損耗や機能低下に対する復旧措置、内外装の模様替えや教室の用途変更を行う。
木の教育環境施設の整備		既存建物の教室・廊下等を木材を活用して改造する等。
屋外教育環境施設の整備		学校の屋外運動場(舗装、芝張り)、学校ビオトープ等の整備を行う。

については、「安全・安心な学校づくり交付金」により、従来の補助率(改築、大規模改造、木の教育環境施設の整備、屋外教育環境施設の整備……1 / 3、地震補強……1 / 2)を基に交付金を算定する。

山村地域・過疎地域等の特別地域については、補助率の嵩上げ措置がある。(交付金の算定においては、嵩上げ後の補助率を参酌して算定する。)

平成19年度公立学校施設整備費概算要求の概要

公立学校施設は、地震等の非常災害時に避難場所としての役割も果たすことから、安全性の確保が不可欠。しかし、現在、耐震性が確保されている建物は全体の約半数。



子どもたちの安全を確保し、安心して学べる環境を整備するため、公立学校施設の耐震化の推進等を図る。

要求額

157,882百万円(前年度 113,721百万円 44,161百万円増)

【本土分】 146,000百万円(前年度103,943百万円 42,057百万円増)

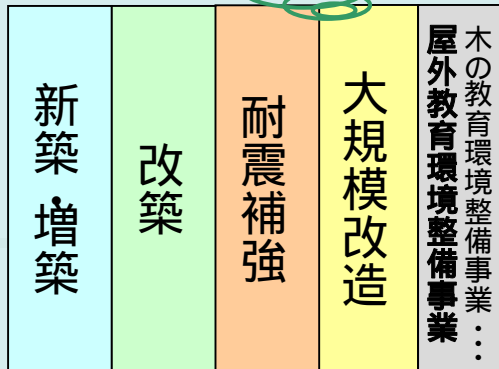
【沖縄分】 11,882百万円(前年度 9,778百万円 2,104百万円増)

沖縄分については、内閣府において要求

学校施設の耐震化の推進等 - 安全・安心な学校づくり交付金の創設 -

現行制度

設置者内における事業間の
経費流用が不可能
年度間の事業量の変更が
不可能・・・など



負担補助区分

負担金

補助金

算定単位

事業単位

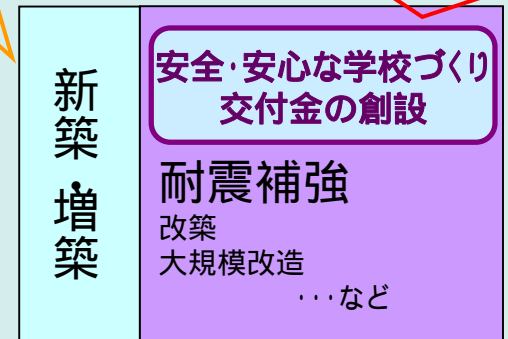
事業単位

改革案

設置者内における事業
間の経費流用が可能

交付金の範囲内で
自由な事業選択が可能
事業の進捗に応じ、年度
間の事業量の変更が可能
設置者内における事業
間の経費流用が可能

地方の裁量を
高めるため、
現行制度を改革



負担補助区分

負担金

交付金

算定単位

設置者
単位

設置者単位

これらの改革に併せて、複数の窓口を一本化するなど大幅な事務の簡素化を実施

公立学校数等の現状

H17.5.1

区 分	幼小中高特殊	うち小中
学校数 (校)	43,676	33,102
学級数 (クラス)	495,841	383,228
児童生徒数(人)	13,406,529	10,431,944
建物保有面積 (千m ²)	218,811 (約5,000m ² / 校)	163,652 (約4,900m ² / 校)
校地保有面積 (千m ²)	897,647 (約20,600m ² / 校)	615,799 (約18,600m ² / 校)
うち運動場面積 (千m ²)	400,577 (約9,200m ² / 校)	303,857 (約9,200m ² / 校)

平成17年度公立学校施設実態調査より。

屋外教育環境施設の整備

趣旨：子ども達の最も身近にある学校の屋外空間を様々な体験活動の場として活用し、たくましく心豊かな子ども達を育成するため、屋外教育環境の一体的な整備充実を図る。

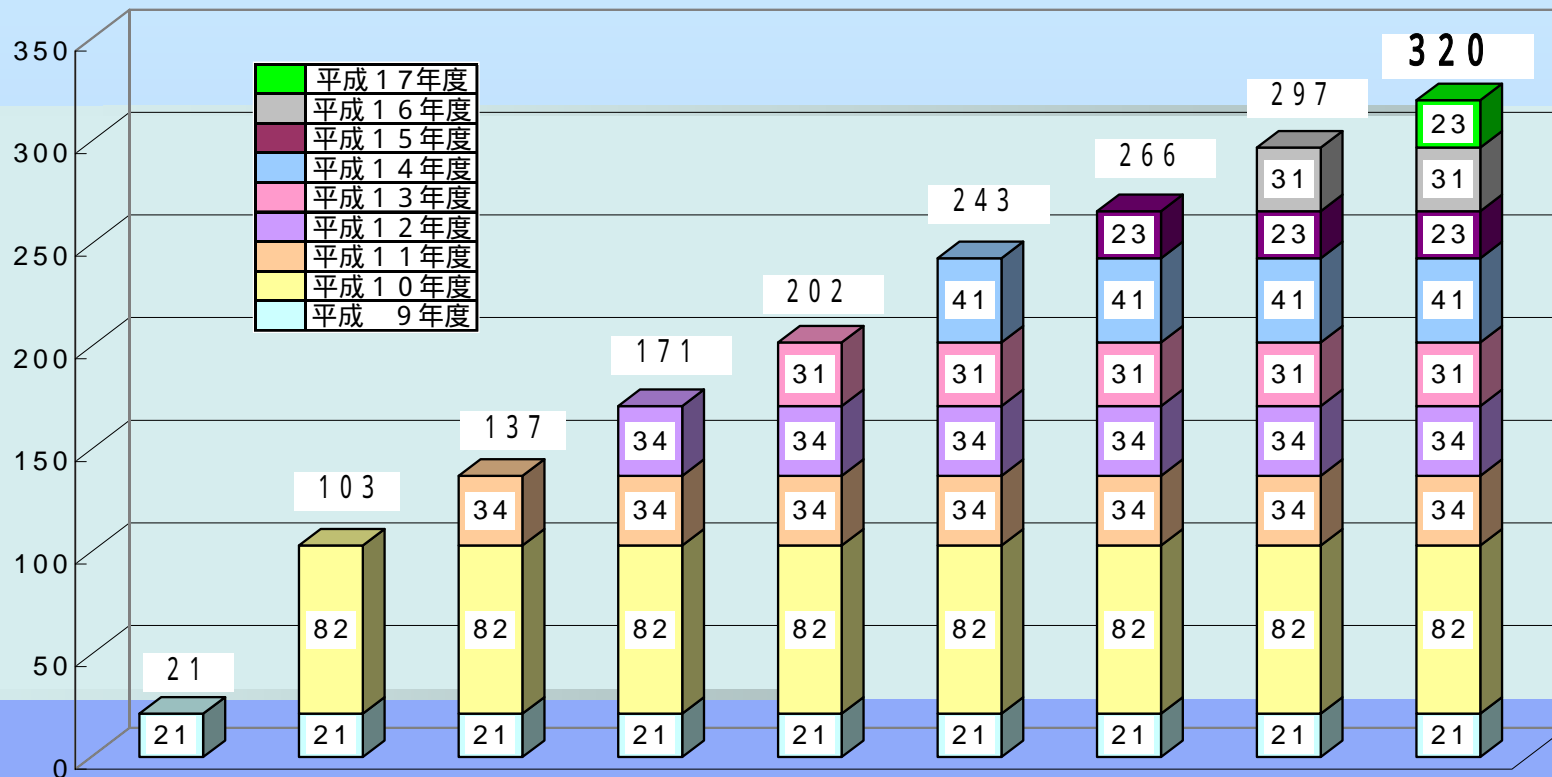
交付金の算定割合：1 / 3

対象施設の具体例：

グラウンド(芝張り、その他)、学校ビオトープ、観察の森、学習園、運動体験広場、屋上緑化、壁面緑化、屋外防災施設

屋外教育環境整備事業において芝張りを実施した学校数(300㎡以上)

学校数(校)



	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
学校数	21	82	34	34	31	41	23	31	23
累計数	21	103	137	171	202	243	266	297	320

屋外教育環境施設の整備を実施した学校の事例



(グラウンドの芝生化)

広島県 安芸高田市立美土里小学校



(学校ビオトープ)

富山県 砺波市立出町小学校

環境を考慮した学校施設(エコスクール)整備

【計画上の留意点】

1. 施設面

「やさしく造る」

- ・児童生徒にやさしい環境を造る 健康的で快適な温熱空気環境の確保
- ・地域にやさしい環境を造る 気候風土への配慮、緑化や雨水還元など
- ・地球にやさしい環境を作る 環境負荷の少ない材料の選択など

2. 運営面

「賢く・永く使う」

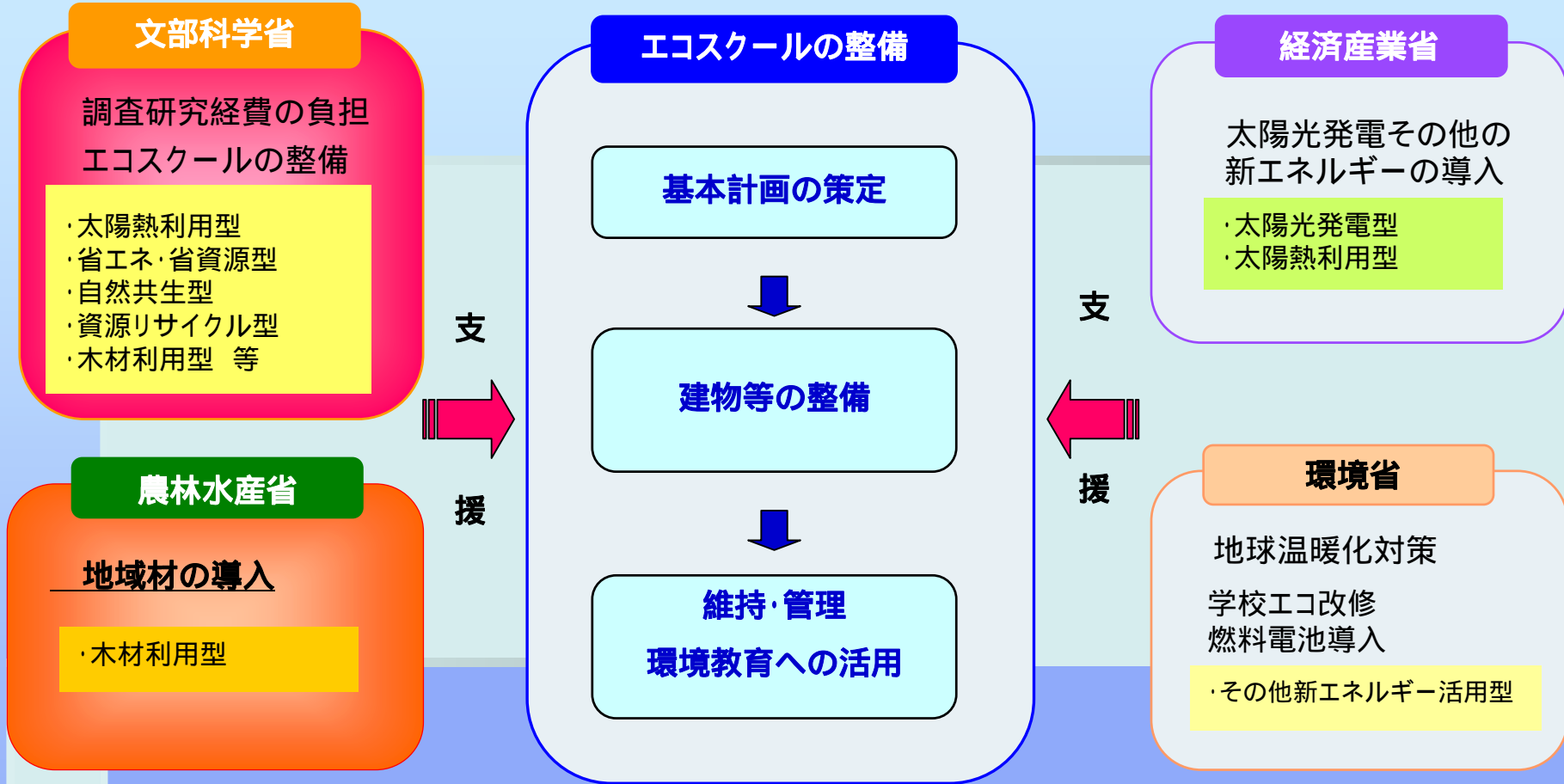
- ・建物の寿命を延ばす 機能変化への対応、永く使える材料の選定
- ・自然の恵みを活かして使う 自然採光、太陽エネルギーの利用など
- ・無駄なく効率よく使う 雨水再利用、再生建材の使用など

3. 教育面

「学習に資する」

- ・児童生徒が環境について学習できる 原理や仕組みを体感できる工夫
- ・地域の人々の意識向上に役立つ 環境問題の知識を深める工夫など

エコスクールパイロット・モデル事業



パイロット・モデル事業の認定校数

H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	合計
18校	20校	20校	41校	58校	88校	97校	98校	101校	68校	609校

環境を考慮した学校施設(エコスクール)の整備事例



自然共生型:校庭を芝生化

北海道えりも町立えりも小学校 H10年度認定



自然共生型:校庭にビオトープを整備

埼玉県狭山市立入間川小学校 H9年度認定



自然共生型:校舎屋上を緑化

福島県梁川町立梁川中学校 H10年度認定



自然共生型:校舎屋上を緑化

福島県梁川町立梁川中学校 H10年度認定

ご静聴ありがとうございました

文部科学省 大臣官房
文教施設企画部 施設助成課